

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2024 年 2 月 22 日

事業所名 縁

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			フロア移設により、指導スペースは広がっている。
	2 職員の配置数は適切である	6	1	利用児童の特性を職員間で、日々共有している。	利用児童の状況によって職員数が不足している状況につながらないように、活動の環境やスキルに応じた職員の配置をする。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7		完全バリアフリーの施設である。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			PDCAサイクルの検討方法を見直し、職員が実践しやすい取り組みを行う。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1		日曜日営業、長時間営業の意見より運営内容を検討している。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			7	第三者機関による外部評価を受ける機会を設ける。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			研修及び、勉強会の機会を増やし、職員全体でのスキルの向上に努める。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		職員会議等にて、職員の意見も反映させている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7		活動プログラムの担当職員を決めて、職員全体で考察して取り組んでいる。	活動内容を、担当者を決め、全体の会議にて内容を振り返りながら行っていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	提供形態に応じて、活動内容を変化させている。	個々の課題活動と集団活動の組み合わせを円滑に行えるように、状況対応が出来る方法を複数検討しておく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		関係機関と連携して、計画を作成している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			職員の役割分担を円滑に行う為、児童の状況を把握できる指導体制に努める。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1		打合せの機会、ミーティングを増やして職員間の情報確認を細やかに行う。
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7				

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		日々の児童の変化を職員が報告しあうことを意識している。	直接支援の職員への勉強会の機会を増やし、スキルアップすることで、多様な意見が取り組めるようにする。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている	7			
関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		連絡調整を、複数の方法を取り入れながら、確認している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	5	アセスメント及び、医療情報提供書を活用する等、病状の確認をしている。	職員が病状や特性を理解して関わられるように、周知確認をする機会を増やす。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	5	関係機関との情報交換を常に行う努力をしている。	関係機関との関わりを、職員へ周知していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	1	担当者会議等の活用をして、情報提供に努めている。	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			研修に参加できているため、連携の機会を増やしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3		新型コロナウイルス感染症等の社会的状況が落ち着いているため、外部との関わりを増やす。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7		担当者職員が、毎回参加できるようにしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	7		状況報告をこまめに行うよう努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時はもとより、利用内容によって随時、説明確認している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		保護者から聞き取りの機会を多くとれるように接している。	問題解決方法を、幅広く検討できるように関係機関との強化を行う。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	アンケート時に確認している。	保護者会の希望が無く開催出来ていないが、保護者同士の連携が取れる機会の提供方法を検討する。

保護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		写真を載せたりすることで様子をわかりやすく伝えている。	情報公開の方法を、保護者ニーズをアンケート等にて行い、実施していく。
	35	個人情報に十分注意している	7		個人情報同意書の更新を定期的に行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		各家庭の状況を踏まえ、児童の障がい特性を考慮した、情報伝達を確認しながら行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5		新型コロナウイルス感染症等の社会的状況が落ち着いているため、外部との関わりの機会を増やす。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			マニュアルの周知方法について複数の方法を検討している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		毎月異なる内容の訓練を行い、様々な内容への対応を確認している。	訓練から予想される状況を、保護者等へ確認を行いながら、周知していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		虐待防止の研修に必ず、全職員が参加し、実例等から対応の確認をしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		医療情報提供書の提出をお願いしている。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			支援方法へつながる為、検討する機会を増やす。	